

2025年3月期

決算補足資料

- 2025年5月14日
- 日本ケミファ株式会社
- 東証スタンダード(4539)



Contents

サマリー	3-4
損益の概況	6-7
医療用医薬品の状況	8-9
ジェネリック医薬品 発売年度別売上	10
貸借対照表	11
キャッシュ・フロー推移	12
設備投資額・減価償却費 ・1株当たり情報	13
各種指標推移	14
2026年3月期 連結業績予想	15-17

経営戦略・3つの事業ドメイン	19
イノベーションロードマップ(抜粋)	20
ジェネリック医薬品事業	21
臨床検査薬事業	22
新薬パイプラインの概況	23
新薬パイプライン詳細	24-26
アルカリ化療法剤	27
医療用医薬品の海外展開	28
資本コストや株価を意識した 経営について	30-32

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は予想数値と異なる結果となる可能性があります。

サマリー①

■2025年3月期業績

＜連結売上高： 32,570百万円（前年同期比+5.9%、対通期予想103.4%）>

- ・ジェネリック医薬品とドロップスクリーンの伸長により、薬価改定の影響を吸収したうえで前年同期比増収となり通期予想を達成

① 医療用医薬品： 25,271百万円（前年同期比+4.9%、対通期予想107.0%）

- 増収要因：
- ・ジェネリック医薬品の拡販注力品の堅調な伸びと近年発売品の寄与
 - ・不採算品再算定品の薬価上昇効果
 - ・長期収載品の選定療養開始に伴うジェネリック医薬品への切り替えの波及効果

- 減収要因：
- ・2024年4月に実施された薬価改定（約△3%）の影響
 - ・当社グループおよび導出先における一部品目の取り扱い終了

② 臨床検査薬： 4,883百万円（前年同期比+19.1%、対通期予想93.0%）

- ・ドロップスクリーンの累計設置台数は1,400台を超え、その高い製品力と、社内外の連携を軸とした営業施策が奏功し、医療機関への普及が引き続き堅調に進んでいる
- ・通期予想には若干届かなかったものの、引き続き高い成長率を維持

＜連結営業利益： 606百万円（前年同期は△494百万円、対通期予想303.3%）>

- ・売上増収に加え、セールスマイクスの改善による原価率の低下および販管費の圧縮努力により黒字に転換

サマリー②

■2026年3月期業績予想

<連結売上高： 35,000百万円（前年同期比 +7.5%）>

- ・ 医療用医薬品は、薬価改定の影響（約△4%）はあるものの、ジェネリック医薬品の拡販注力品や新規発売品の寄与等により前年同期比+4.8%の増収、臨床検査薬は、ドロップスクリーンの伸長により同+19.6%の増収を見込む

<連結利益>

- ・ 薬価改定の影響や、日本薬品工業つくば工場3号棟2階新設備の償却費負担増、原材料やエネルギーコストの上昇等に加えて、ジェネリック医薬品等の開発進展に伴う研究開発費の増加等を織り込み、営業利益を300百万円、経常利益を100百万円、当期純利益を150百万円と予想

■トピックス

<安定供給体制強化>

- ・ 日本薬品工業つくば工場3号棟2階の実装工事が完了、2025年度後半より順次出荷を開始予定

<新薬開発状況>

- ・ NC-2800はフェーズⅡa試験開始に向けた準備が進行中
- ・ DFP-17729は 2025年3月にすい臓がん患者を対象としたフェーズⅡ/Ⅲ試験が開始された
- ・ DFP-14323は非小細胞肺がん患者を対象としたフェーズⅢ試験が進行中

■資本コストや株価を意識した経営

- ・ 3つの事業ドメインを推進し収益力を向上することでROE8.0%以上、PBR1.0倍以上を目指す



2025年3月期決算概要

損益の概況（対前年同期比）

（百万円）

	2024年3月期		2025年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	30,748	100.0%	32,570	100.0%	+1,822	+5.9%
医薬品事業	29,611	96.3%	31,386	96.4%	+1,774	+6.0%
内、医療用医薬品 ※1	24,093	78.4%	25,271	77.6%	+1,178	+4.9%
内、臨床検査薬 ※1	4,101	13.3%	4,883	15.0%	+781	+19.1%
その他	1,137	3.7%	1,184	3.6%	+47	+4.2%
売上原価	23,010	74.8%	23,824	73.1%	+813	+3.5%
販売管理費	8,232	26.8%	8,139	25.0%	△ 92	△ 1.1%
内、研究開発費	2,325	7.6%	2,292	7.0%	△ 33	△ 1.4%
営業利益又は営業損失(△)	△ 494	—	606	1.9%	+1,100	—
公的資金繰り戻し後営業利益※2	△ 74	—	939	2.9%	+1,013	—
経常利益又は経常損失(△)	△ 219	—	443	1.4%	+662	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△)	△ 180	—	294	0.9%	+475	—

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

損益の概況(対通期予想)

(百万円)

	2024年3月期		2025年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	通期予想	進捗率
売上高	30,748	100.0%	32,570	100.0%	31,500	103.4%
医薬品事業	29,611	96.3%	31,386	96.4%	—	—
内、医療用医薬品 ^{※1}	24,093	78.4%	25,271	77.6%	23,620	107.0%
内、臨床検査薬 ^{※1}	4,101	13.3%	4,883	15.0%	5,250	93.0%
その他	1,137	3.7%	1,184	3.6%	—	—
売上原価	23,010	74.8%	23,824	73.1%	—	—
販売管理費	8,232	26.8%	8,139	25.0%	—	—
内、研究開発費	2,325	7.6%	2,292	7.0%	2,700	84.9%
営業利益又は営業損失(△)	△ 494	—	606	1.9%	200	303.3%
公的資金繰り戻し後営業利益 ^{※2}	△ 74	—	939	2.9%	640	146.8%
経常利益又は経常損失(△)	△ 219	—	443	1.4%	100	443.2%
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△)	△ 180	—	294	0.9%	60	491.4%

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

医療用医薬品の状況（対前年同期比）

（百万円）

	2024年3月期		2025年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	前年同期比	
					増減額	増減率
医療用医薬品（①+②）※	24,093	100.0%	25,271	100.0%	+1,178	+4.9%
①ジェネリック医薬品	22,766	94.5%	23,968	94.8%	+1,201	+5.3%
自社販売	22,148	—	23,589	—	+1,441	+6.5%
導出・輸出	618	—	378	—	△ 240	△ 38.8%
②主力品・新薬	1,326	5.5%	1,303	5.2%	△ 23	△ 1.8%
ウラリット	563	—	349	—	△ 214	△ 38.0%
その他	762	—	953	—	+190	+25.0%
ジェネリック医薬品事業（①+③）	23,775	—	24,784	—	+1,008	+4.2%
③ジェネリック医薬品受託	1,008	—	816	—	△ 192	△ 19.1%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

医療用医薬品の状況（対通期予想）

（百万円）

	2024年3月期		2025年3月期			
	実績	構成比	実績	構成比	期初予想	進捗率
医療用医薬品（①+②）※	24,093	100.0%	25,271	100.0%	23,620	107.0%
①ジェネリック医薬品	22,766	94.5%	23,968	94.8%	22,470	106.7%
自社販売	22,148	—	23,589	—	22,030	107.1%
導出・輸出	618	—	378	—	440	86.0%
②主力品・新薬	1,326	5.5%	1,303	5.2%	1,150	113.3%
ウラリット	563	—	349	—	480	72.9%
その他	762	—	953	—	670	142.3%
ジェネリック医薬品事業（①+③）	23,775	—	24,784	—	23,490	105.5%
③ジェネリック医薬品受託	1,008	—	816	—	1,020	80.0%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

ジェネリック医薬品 発売年度別売上

(百万円)

	2024年3月期		2025年3月期			主な発売品目
	実績	構成比	実績	構成比	増減率	
2021年3月期以前	21,286	93.5%	22,248	92.8%	+4.5%	
2022年3月期	372	1.6%	387	1.6%	+3.9%	・エスゾピクロン ・デュロキセチン
2023年3月期	930	4.1%	1,027	4.3%	+10.4%	・フェブキソスタット ・エソメプラゾール
2024年3月期	177	0.8%	168	0.7%	△ 4.7%	・アジルサルタン
2025年3月期	—	—	136	0.6%	—	・ゾニサミドOD ・リバーロキサバンOD
合計	22,766	100.0%	23,968	100.0%	+5.3%	

貸借対照表

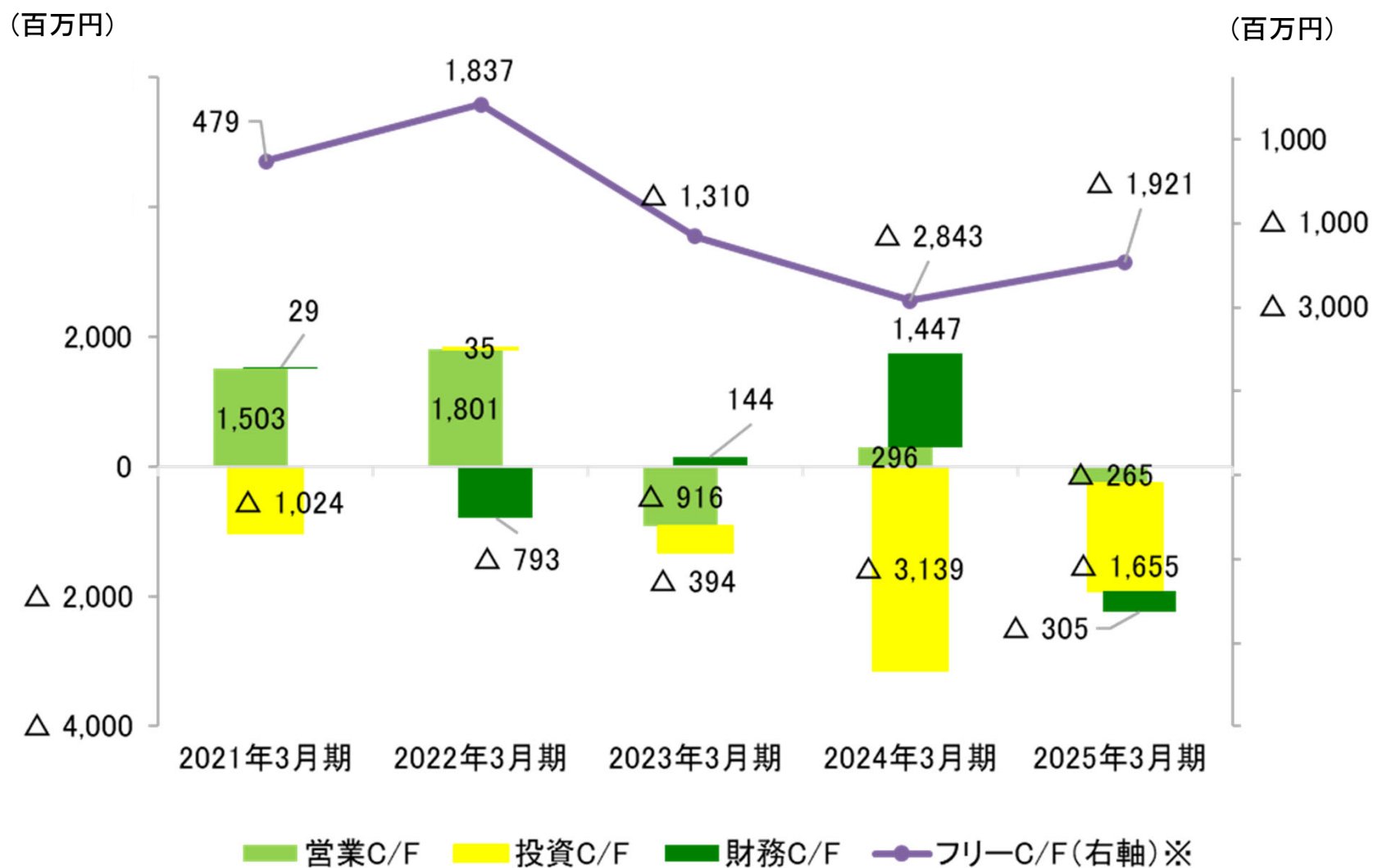
(百万円)

項目	2024年3月期	2025年3月期				
	3月末	3月末	増減額	主な増減項目と理由		
流動資産	31,836	30,066	△ 1,769	現金及び預金	△ 2,178	※1
固定資産	17,712	19,785	+2,072	建物及び構築物	+2,958	※2
				有形リース資産	+891	※2
				建設仮勘定	△ 2,442	※2
資産合計	49,548	49,851	+302			
流動負債	13,786	12,261	△ 1,524	仕入債務	△ 1,104	※1
固定負債	17,301	18,422	+1,121	リース債務	+940	※2
負債合計	31,087	30,684	△ 403			
純資産合計	18,460	19,167	+706			
負債純資産合計	49,548	49,851	+302			

※1 支払いサイトの短縮(下請法)の影響によるもの

※2 つくば工場3号棟の新設備実装工事完了等によるもの

キャッシュフロー推移



※フリーC/F = 営業C/F + 投資C/F

設備投資額・減価償却費・1株当たり情報

(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期			
	金額	金額	増減率	通期予想	進捗率
設備投資額	2,747	3,003	+9.3%	3,410	88.1%
減価償却費	1,459	1,377	△ 5.6%	1,490	92.4%

(円)

	2024年3月期	2025年3月期		
	金額	金額	前年同期 増減	通期予想
1株当たり純利益又は 純損失(△)	△ 50.14	81.72	+131.86	16.63
	3月末	3月末	前年同期 増減	通期予想
1株当たり純資産	5,116.02	5,312.46	+196.44	—
1株当たり配当金	50.00	50.00	—	50.00
(参考)連結配当性向	—	61.2%	—	300.7%

各種指標推移

	2022年3月末	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末
売上高売上原価率	72.1%	74.1%	74.8%	73.1%
売上高販管費率	25.4%	26.7%	26.8%	25.0%
売上高営業利益率	2.5%	—	—	1.9%
売上高研究開発費率	7.4%	7.7%	7.6%	7.0%
EBITDA (百万円)	2,727	1,682	1,391	2,018
流動比率(倍)	2.00x	2.26x	2.31x	2.45x
D/Eレシオ	78.9%	81.0%	90.5%	87.3%
自己資本比率	37.4%	38.1%	37.3%	38.4%
自己資本利益率(ROE)	3.8%	1.8%	—	1.6%
売上高純利益率	2.2%	1.1%	—	0.9%
総資産回転率	67.3%	64.4%	62.7%	65.5%
財務レバレッジ	261.2%	264.7%	265.8%	259.3%
配当性向	25.7%	53.2%	—	61.2%

2026年3月期 連結業績予想①

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		
	実績	構成比	通期予想	構成比	増減率
売上高	32,570	100.0%	35,000	100.0%	+7.5%
医薬品事業	31,386	96.4%	—	—	—
内、医療用医薬品 ^{※1}	25,271	77.6%	26,490	75.7%	+4.8%
内、臨床検査薬 ^{※1}	4,883	15.0%	5,840	16.7%	+19.6%
その他	1,184	3.6%	—	—	—
売上原価	23,824	73.1%	—	—	—
販売管理費	8,139	25.0%	—	—	—
内、研究開発費	2,292	7.0%	2,750	7.9%	+20.0%
営業利益	606	1.9%	300	0.9%	△ 50.5%
公的資金繰り戻し後営業利益 ^{※2}	939	2.9%	450	1.3%	△ 52.1%
経常利益	443	1.4%	100	0.3%	△ 77.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	294	0.9%	150	0.4%	△ 49.1%

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

2026年3月期 連結業績予想②

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		
	実績	構成比	通期予想	構成比	増減率
医療用医薬品(①+②)※	25,271	100.0%	26,490	100.0%	+4.8%
①ジェネリック医薬品	23,968	94.8%	24,680	93.2%	+3.0%
自社販売	23,589	—	24,360	—	+3.3%
導出・輸出	378	—	320	—	△ 15.4%
②主力品・新薬	1,303	5.2%	1,810	6.8%	+38.9%
ウラリット	349	—	310	—	△ 11.4%
その他	953	—	1,500	—	+57.4%
ジェネリック医薬品事業(①+③)	24,784	—	25,500	100.0%	+2.9%
③ジェネリック医薬品受託	816	—	820	3.2%	+0.5%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

2026年3月期 連結業績予想③

(百万円)

	2025年3月期 金額	2026年3月期(予想) 金額	増減率
設備投資額	3,003	1,420	△ 52.7%
減価償却費	1,377	1,690	+22.7%

(円)

	2025年3月期 金額	2026年3月期(予想) 金額	前年同期 増減
1株あたり当期純利益	81.72	41.57	△ 40.15
	3月末	3月末	
1株当たり純資産	5,312.46	—	—
1株当たり配当金	50.00	50.00	0.00
(参考)連結配当性向	61.2%	120.3%	—



当社の経営戦略について

経営戦略・3つの事業ドメイン

当社グループは、時間軸の異なる「ジェネリック医薬品事業」、「臨床検査薬事業」、アルカリ化療法剤を含めた「新薬事業」を3つの事業ドメインと定め、それらを海外に展開することで、企業価値最大化と持続的成長を図っています。

ジェネリック医薬品事業

「質」を追求した特色あるジェネリック医薬品事業を展開する

臨床検査薬事業

アレルギー領域で培ったコア技術を軸に画期的製品群を展開し業容を拡大する

新薬事業

アルカリ化療法をはじめとする自社技術・ノウハウを核に画期的新薬を継続的に創製し収益化する

海外展開

3つの事業ドメインを海外市場に積極展開し世界で存在感を発揮するグループとなる

イノベーションロードマップ(抜粋)

新製品・新薬で複数のイノベーション創出に取り組み、日本ケミファグループの成長ストーリーへとつなげていきます。

事業ドメイン		取組内容	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
臨床検査薬	ドロップスクリーン 国内外市場/新領域展開	国内展開 設置台数約1,000台（2023年度）→目標2,000台（2025年度） 測定試薬のシリーズ化										
		海外での輸出開始 ~順次拡大										
		製品改良 国内：次期バージョンモデル投入 海外：試薬ラインナップ拡充・パネル開発										
新薬	アルカリ化 療法剤	DFP-17729 フェーズⅡ/Ⅲ試験開始	肝臓がん フェーズⅠ/Ⅱ		評価・検討		フェーズⅡ/Ⅲ開始			申請・承認・上市		
		CKD関連適応拡大検討	臨床データ解析/基礎データ追加				2024年より開始された臨床研究の成果を適応拡大の可能性につなげる					
		健康食品・保健機能食品など					機能性表示食品等 3品目の上市			2024年度に1品目上市済 その他の食品化関連商品も順次上市		
	アルカリ化 以外	NC-2800 フェーズⅡaの実施と導出	オプション契約		AMED CICLE事業によるフェーズⅠ		Ⅱaの実施			導出先によるフェーズⅡb/Ⅲの実施		
		NC-2500 新規適応による導出			導出先による中国での開発～上市			痛風/高尿酸血症以外の適応症での導出活動を継続				
		NC-2600 適応を広げての導出	慢性咳嗽をターゲットとした早期の導出							導出先による臨床試験の実施		
		NC-2700 導出活動継続					早期の導出による収益貢献					
		DFP-14323 フェーズⅢ開始	肺がん フェーズⅡ完了			フェーズⅢ開始				申請・承認・上市		
	海外展開	製品輸出と現地開発/製造	ASEAN・中国 ・中東・アフリカ			4ヶ国6品目（2024年度）→ 5ヶ国14品目（2027年度）				さらなる販売国・品目数の拡大		

ジェネリック医薬品事業

つくば工場3号棟2階の新設備は2025年度後半より順次出荷を開始予定。引き続きメーカーの根源的責務として、品質保証体制と安定供給体制の強化へ不断の取り組みを推進します。また、医療機関や患者さんに求められる競争優位性ある品目を、導入も選択肢に含めて継続的に上市することを目指します。

＞ 日本薬品工業つくば工場3号棟2階の新設備

- 今後上市予定のジェネリック医薬品の製造や、既存1号棟の製造品目移管等を目的として2024年8月に実装工事を完了
- 各種バリデーションや試作等を経て、2026年3月期第3四半期より、順次、製品の出荷を開始する予定

＞ 安定供給体制等に関する企業評価

- 安定供給や適正価格維持の取り組み等に関し、当局から適正な評価を受けており、引き続き一層の体制強化に努める

＞ オーソライズドジェネリック(AG)の承認を取得

- 2025年2月に、サノフィ株式会社が製造販売する、アマリール®錠のAGであるグリメピリド錠「NC」の製造販売承認を取得

＞ 品質保証体制のさらなる強化

- 2024年4月より日薬連主導の承認書の自主点検を行った結果、品質・有効性・安全性に影響する重大な相違事項はなかった
- グループ製造拠点および社外製造委託先や原薬製造所に対し定期的な監査を実施し、GMPを遵守した製造管理および品質管理の適正実施を確認するとともに、GQP・GMPIに則った手順を絶えず見直して、品質保証体制の継続的改善に取り組む

臨床検査薬事業

ドロップスクリーンの国内設置台数は、発売開始から累計1,400台を超えました。2025年度には2,000台を目指すとともに、次世代機種の開発と、海外展開に向けた取り組みも進めます。

>ドロップスクリーンの取り組み

製品特長

- 注射器採血が不要で1滴の血液から41項目のアレルゲンを、30分で測定できるという高い製品力を有する
- 医療従事者・患者さんの負担を軽減し高評価を得ている
- POCT(ポイント・オブ・ケア・テストング*)による新たな市場を創造

*POCT=医療現場で実施される臨床検査

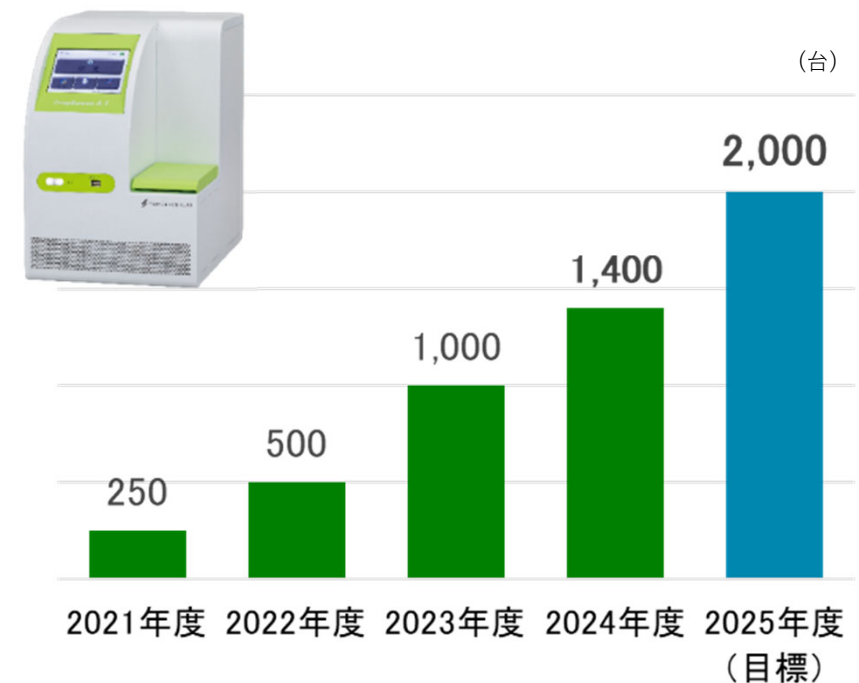
国内での普及拡大

- 製品価値を広く認知浸透させるべく、社内外の連携を軸にした営業施策を展開

さらなる展開

- 次世代の機器・試薬を開発中
- 海外での発売に向けた開発、法規制対応、パートナー選定等にも取り組む

>ドロップスクリーン累計設置台数推移



新薬パイプラインの概況

NC-2800はフェーズⅡa実施に向けた準備を進めています。DFP-17729は2025年3月よりフェーズⅡ/ⅢがDFP社で開始されました。DFP-14323はフェーズⅢが進行中です。

■ 自社開発 ■ 他社とのアライアンスによる開発 ■ 導出先において開発中

開発番号	作用機序 (ターゲット)	前臨床	フェーズ Ⅰ	フェーズ Ⅱ	フェーズ Ⅲ
NC-2500	XOR阻害薬 (痛風・高尿酸血症)	■	■	■	
NC-2600	P2X4受容体拮抗薬 (神経障害性疼痛・慢性咳嗽)	■	■		
NC-2700	URAT1阻害薬 (痛風・高尿酸血症)	■			
NC-2800	オピオイドδ受容体作動薬 (うつ・不安)	■	■		
DFP-17729	がん微小環境改善剤 (膵臓がん)	■	■	■	■
DFP-14323	抗がん剤候補化合物 (非小細胞肺癌)	■	■	■	■
カルバン	$\alpha 1 \beta 1$ 遮断剤 (ハンチントン病他)			■	

新薬パイプライン詳細－自社開発①

NC-2500 (XOR 阻害薬)

開発段階	対象疾患	創製	導出先企業
フェーズ I 終了	痛風・高尿酸血症	当社	南京寧和衡信製薬有限公司(中国)
特徴		その他	
・XOR阻害作用により尿酸生成を抑制する。 ・フェーズ I において、血中尿酸値を徐々に低下させることで、治療中に生じる急性痛風発作の問題改善につながる可能性が示唆された。		・2023年に痛風・高尿酸血症を対象に南京寧和衡信製薬有限公司とライセンス契約を締結、中国国内での治験実施に向けた準備が進められている。 ・神経変性疾患への効果を示す基礎データが得られており同疾患をターゲットとした展開も検討中。	

NC-2600 (P2X4 受容体拮抗薬)

赤字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズ I 終了	神経障害性疼痛・慢性咳嗽	当社を含む2者共同研究	非開示
特徴		その他	
・P2X4レセプターを抑制するというユニークな作用機序を有する。		・in vivo試験で慢性咳嗽に対する有効性が確認され、味覚障害などの副作用がない新しい機序の治療薬として可能性を探る。 ・2024年7月にイタリアのピサ大学から炎症性腸疾患に対し、同年11月には鳥取大学から子宮内膜症に対し、可能性が期待できる論文が発表される。 ・国内外で積極的な導出活動を展開中。	

新薬パイプライン詳細－自社開発②

NC-2700 (URAT1 阻害薬)

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
非臨床終了	痛風・高尿酸血症	当社を含む3者共同研究	—
特徴		その他	
・URAT1阻害作用により、尿酸の体外への排泄を促進する。		・酸性尿の改善効果がin vivo試験で確認されており、既存薬の課題である尿中での尿酸結晶析出による腎結石や腎毒性のリスクを低減させる可能性を有している。	

NC-2800 (オピオイドδ受容体作動薬)

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズⅠ終了	うつ・不安	当社を含む4者共同研究	住友ファーマ株式会社
特徴		その他	
・オピオイドδ受容体をターゲットとし、オピオイドμ受容体作動薬（モルヒネなど）に比べ依存性、耐性、便秘、呼吸抑制などの副作用への影響が少なく、安全性と有効性のバランスに優れていることが示唆されている。		・2017年度のAMEDの医療研究開発革新基盤創成事業(CICLE)に採択。 ・2023年度にフェーズⅠ終了、2024年10月にその結果を含むマイルストーンに対しAMEDからプログラムの継続承認を得る。 ・現在はフェーズⅡa実施準備が進行中。	

新薬パイプライン詳細－導入

DFP-17729（がん微小環境改善剤）

赤字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅡ／Ⅲ	膵臓がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社
特徴		その他	
・微小環境をアルカリ化することで、がん細胞の活動が抑制され、併用する抗がん剤の効果が出やすくなる。		・2020年にライセンス契約を締結、当社が日本国内での独占的販売権と国内で販売するための独占的製造権を獲得している。 ・2025年3月にフェーズⅡ／Ⅲ試験が開始されており、膵臓がんについては2028年ころには承認申請できるものと期待している。 ・将来的には他のがん種への応用展開も検討していく。	

DFP-14323（抗がん剤候補化合物）

赤字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅢ	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社
特徴		その他	
・アミノペプチダーゼNと結合することで、がん患者の免疫応答を強め、標準的な抗がん剤の投与量を減らした上で、副作用を増強することなく効果を高めることが示唆されている。		・2022年にライセンス契約を締結、当社が日本国内での独占的販売権を獲得している。 ・2024年2月よりフェーズⅢが開始され、国内約30施設で症例登録が進行中。 ・2029年ころまでには承認申請されるものと期待している。	

アルカリ化療法剤

「ウラリット」で長年培ったアルカリ化療法剤に関する技術・知見を活かして、がんや慢性腎臓病等、多面的な展開を推進中です。

> アルカリ化の応用

アルカリ化の技術・知見を活かし
幅広い用途への
展開を図る

がん領域

・DFP-17729
(膵臓がんを対象として開発中、
2025年3月よりフェーズⅡ/Ⅲ
試験を開始、詳細はp.26に
記載)

・抗がん剤誘発性末梢神経障
害の予防・治療
(富山大学と共同研究を実施、
2025年4月に学会誌へ掲載)

慢性腎臓病進展抑制

2024年7月より名古屋大学において医
師主導臨床研究が開始され、症例登
録が進行中

健康食品・保健機能食品

2024年度にUHA味覚糖株
式会社と共同開発した機能
性表示食品「サガルーノ」の
本格販売を開始。
その他のアプローチについ
ても基礎レベルでのエビデ
ンス取得を目指している

医療用医薬品の海外展開

2025年3月末時点で4カ国において6品目を販売中。さらに、ベトナムと中国で承認を取得している2品目の販売準備を進めています。また、2027年度までに5カ国 14 品目の販売を目指します。

> ベトナムでレバミピド錠の供給を開始

- ・当社グループの海外製造拠点Nippon Chemiphar Vietnam Co., Ltd.は、同社が製造する消化性潰瘍剤「レバミピド錠100mg」の現地供給を2024年8月から開始
- ・ベトナムを代表する国立医大病院でも採用される



ベトナムで開催したレバミピド錠の初荷式

> 中国でエピナスチン錠の供給を開始

- ・日本で製造されるジェネリック医薬品として中国で初めて承認された、アレルギー用薬「エピナスチン塩酸塩錠20mg」を2024年7月に同地へ向け輸出開始

> その他の販売準備品目

- ・ベトナムで高尿酸血症治療剤「フェブキソスタット錠80mg」が承認されており、現地販売の準備が進行中
- ・2025年4月に中国で高血圧症治療剤「ベニジピン塩酸塩錠」の承認をパートナー企業が取得

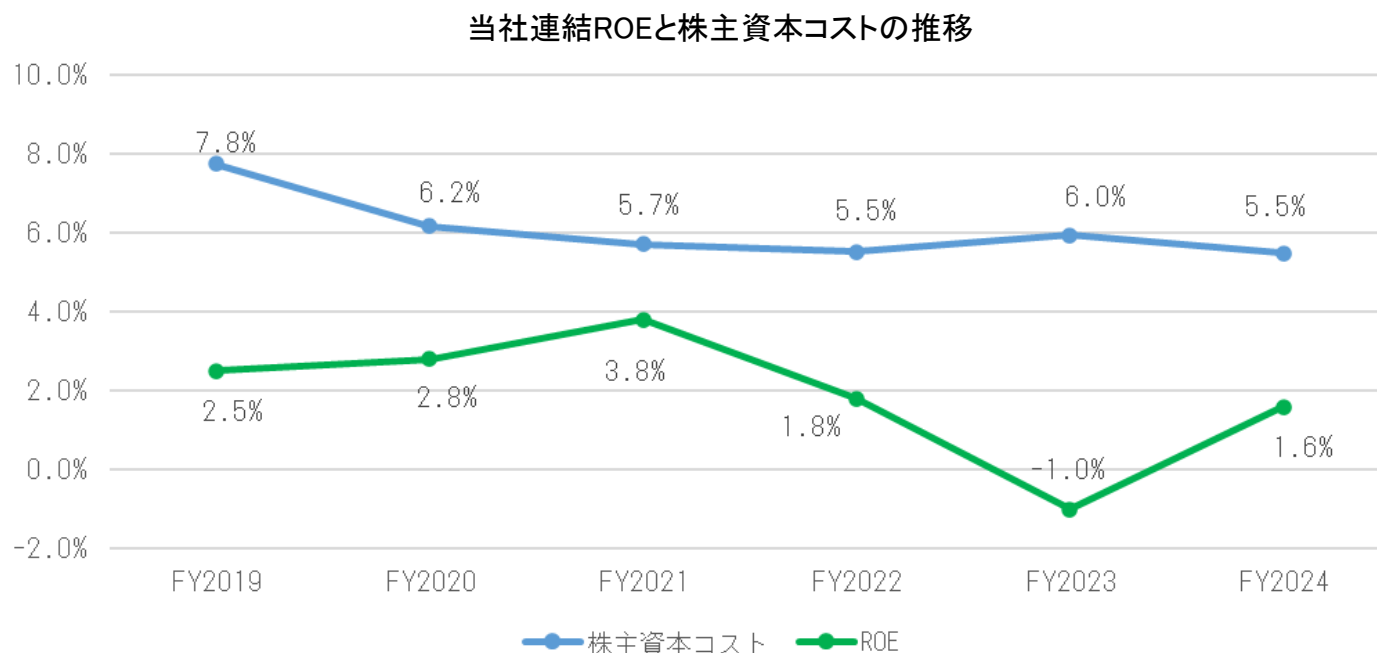


資本コストや株価を意識した 経営について

現状分析と評価


＞ ROEと株主資本コストの推移

- 現在の主力事業ドメインであるジェネリック医薬品事業は、ジェネリック医薬品の置換率が国の目標80%に到達したことによる市場成長の鈍化、2020年からの中間年を含む毎年薬価改定の実施等により、ここ数年は収益性が悪化してきた。
- 上記を背景に連結損益も低迷を余儀なくされてきたことから、ROEが株主資本コストを下回る状況が続いてきたが、臨床検査薬事業のアレルギー検査機器・試薬「ドロップスクリーン」が順調に拡大していることや、ジェネリック医薬品事業においても、利益品目の拡販に加えて不採算品目の薬価再算定や長期収載品の選定療養制度が導入されたことが奏功し、ROEは改善に転じた。



資本コストや株価を意識した経営の取り組み

時間軸の異なる3つの事業ドメインを同時に推進し、持続的成長と企業価値の最大化を実現

事業	現状	今後の取り組み
ジェネリック医薬品事業	<p>近年の減収減益基調から改善傾向へ</p> <p>↓ 市場成長鈍化/事実上の毎年薬価改定等の影響</p> <p>↑ 多様な販路活用/利益品目拡販/適正価格維持</p> <p>↑ ベトナム工場活用による原価低減</p> <p>↑ 不採算品目再算定、最低薬価引き上げ</p>	<p>将来にわたる安定的収益基盤へ転換</p> <p>↑ ベトナム工場・国内基幹工場活用と他社連携による製造数量アップ/製造効率化/原価低減</p> <p>↑ 新製品投入による売上・利益拡大（オーソライズドGE等を含む）</p>
臨床検査薬事業	<p>大幅増収増益で当社グループ収益改善を牽引</p> <p>↑ アレルギースクリーニング検査製品「ドロップスクリーン(DS)」の大幅伸長</p>	<p>引き続き当社グループ収益拡大に貢献</p> <p>↑ DS国内累計設置台数2,000台早期突破</p> <p>↑ DS新製品投入、海外進出</p>
新薬事業	<p>パイプラインは充実するも収益貢献は未実現</p> <p>↑ 自社開発品開発進展(NC-2800:フェーズⅠ終了)</p> <p>↑ 導入品開発進展(DFP-14323:フェーズⅢ実施中、DFP-17729:フェーズⅡ/Ⅲ開始)</p>	<p>収益化を開始、中長期的な成長ドライバーへ</p> <p>↑ 住友ファーマによるオプション権行使</p> <p>↑ 導入新薬2品目の上市</p>
数値目標	ROE:1.6%/PBR:0.3倍	 ROE:8.0%以上/PBR:1.0倍以上

キャピタルアロケーションポリシー

経営全般の効率化を進め収益力の向上と財務体質の強化を図りつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことが基本方針

Cash Inflow	Cash Outflow	
営業キャッシュフロー	成長投資	<ul style="list-style-type: none">● 特長あるジェネリック医薬品の開発● アレルギー検査次世代製品や新製品開発● 新薬パイプラインのステージアップ開発費
	設備投資	国内外工場/研究所設備維持・更新・増強投資
保有資産売却	財務基盤強化	負債圧縮
	株主還元	安定的かつ継続的配当の実施

本資料に関するお問い合わせ先
日本ケミファ株式会社 経営企画部(広報チーム)
Tel 03-3863-1211 E-mail ir@chemiphar.co.jp

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。